

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	空洞がある大木のその内部(うろ)からの出火火災にて、はしごで木に登って上方から消火したところ、水蒸気に襲われた。
3. 体験した事例の中心的要素	大木の空洞内部での出火で、空洞は下から上へつながっていたが、下からの放水は燃えている場所に届かず、木の上の方につながっている穴の中へ地上から放水しても、なかなか燃焼実体に有効注水することができなかった。その木は県の天然記念物であり、木を切る(木に穴を開ける)許可がなかなか得られなかった。木の上方の穴から直接水をかけるといことになり、はしごを架梯して木に登り、地上から約10mほどの上方から穴の中へ放水を行うと同時に、水蒸気が一気に上がり、呼吸器も装着していなかったため、呼吸が一時できず、視界が真っ白な状態になり、足を滑らせて木から落ちないか不安な気持ちになった。
4. 体験した事例の原因・理由	水蒸気がこれほど多量に上がるとは、自分自身想像していなかった。また、なかなか消火できないことへのあせりや、深夜覚知であり、早く事態を収拾したいという皆の望み中で指示され、安全管理などは二の次の活動であった。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成14年11月某日 午前0時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：公園敷地内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	墜落・転落、火傷・熱傷、その他：気道熱傷
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[その他:立木]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が踊いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

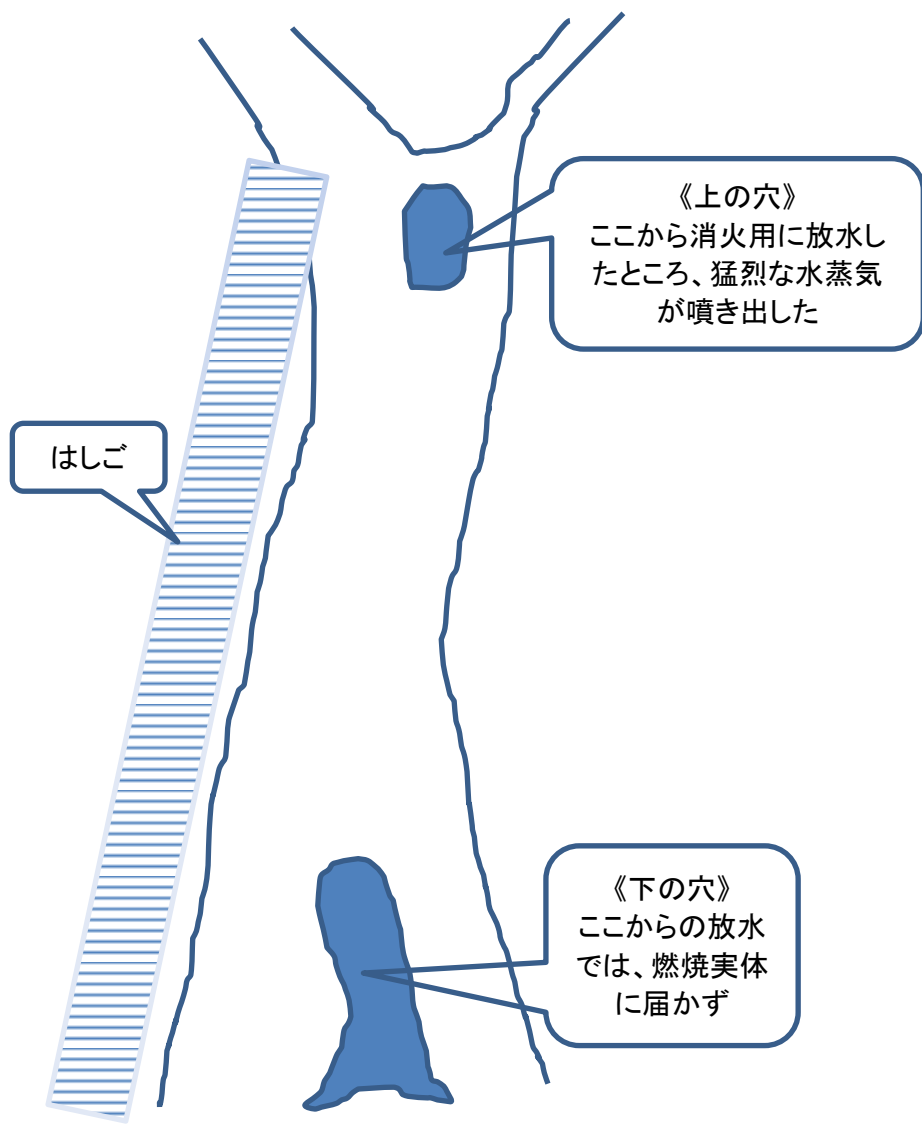
--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--



《上の穴》
ここから消火用に放水したところ、猛烈な水蒸気が噴き出した

《下の穴》
ここからの放水では、燃焼実体には届かず

はしご